

令和4年度 学校評価書

令和5年3月23日

学校法人長嶋学園

城南静岡高等学校・中学校

校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

I. 経営の重点に関すること

	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)	評価	学校関係者評価委員から
重点目標 (産業人としての知識・技能修得、豊かな人生観を熟慮させる)	<p>○コロナ禍での授業について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密にならないように、学年を跨ぐ行事は行わない。 ・平日は黙食し教員が指導。 ・土日の部活動は午前のみ、午後のみとし昼食はとらない。出来る限り対面での授業を行う。 ・パソコン上で講義を行い、ノートを作成、教員がリモートでノートチェックが出来れば理想である。しかし、現実的には、毎日登校時間を決めその時間にノート提出、クラス全員を見る場合は教員が2人必要？ ・全教科リモートになったときには、朝夕のHRまでしっかり出来るような対応をしていく。 ○ 中学は多読での実践的な英語や英検の資格取得を目指す。 ○ 高校ICT科については家庭学習でも落ち着いて検定勉強が出来るように指導する。 ○ 高校普通科、特に3年生は共通テストが代わり、暗記だけでは点数にならない。家庭学習は常に進路を意識させる。 ○ 部活動は集団での練習制限される中での活動であるため常に個人練習が出来るように考えておく。 ○ コロナ禍でも楽しく学べる学校を目指す。教員の情報処理能力向上と設備の充実。 	<p>○コロナ禍での授業について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密にならないように、対面での授業を行う。少人数学級で良い授業にはなるが、授業時間、日数が倍になる。大勢で行う場合は、広い部屋を使う。 ・もし、リモートになったら授業は全教科ではなく、出来る教員の教科だけを行う。実習・机間巡視や個別指導が多くなる教科は分けて考える。 ・パソコン上での講義は、出来る教員が行っているだけで、全員への講習は行っていない。今後は外部から講師を入れ行う必要がある。朝夕のHRまでしっかり出来るような対応をしていく。 ○ 中学は多読での実践的な英語や英検の資格取得を目指す。 ○ 高校ICT科についても、出来る限り対面で行う。 ○ 今年度の普通科高校3年生は全国的にコロナと共通テストの内容が定まらないため大変だった。常に進路を意識させるため生徒との個別の連絡を密にする。共通テストの模試を取り入れ、今年度の問題形式を考え、家庭学習に目的意識を持たせる。 ○ 部活動は学校での練習が短くなり、短時間で効率的な練習が必要となってくる。毎日毎時間声をかけ、心が折れないように励ます。 ○ コロナ禍でも楽しく学べる学校を目指すも、校内は検温、消毒、マスクとの制限のほか。大きい声を出さないことや友達同士くっつかないことを心がけているため、生徒の元気なところや明るい所が見えなくなっている。外で大きい声が出せるところでは大きい声で歌や発表をしてほしい。密着が多くなってきたのでその都度注意。 	<p>B</p> <p>今年度は普通科が全員共通テストを受けることができませんでした。昨年度はセンター試験から共通テストへ移行し、内容が大きく変化しています。全国的にも一昨年に比べ平均点が大きく下がっていますが、暗記だけにとらわれずしっかり勉強した生徒は余り今迄と点数が変わらなかつたように思います。今年度は昨年度下がりすぎた数学の平均点も元に戻ってきたようです。学校、教員、生徒に問われることは、社会で通用する学習が出来ているかどうか。選択問題ではなく文章を読み込んで理解し、書き出す力があるかどうか。しかも進んでそれが出来る事が重要です。本校も検定資格を多く取得できた生徒とそうではない生徒に分かれたように思いますが、少し検定取得率が下がっているのが現状です。コロナ禍というだけではなく授業内容の再編が必要です。今年はコロナ前と同じような結果が出せるように工夫しなければならなかつたと思います。</p> <p>部活動の試合や発表会、検定が正常に戻ってきており、その時の状況に応じた講習や補講等を行い対応し次の手を打てることが生徒にも教員にも必要だつたと思います。</p>	A	<p>コロナ禍もだんだん落ち着きを見せ、学校生活も勉学や資格取得、部活動に頑張れる環境に戻りつつあります。学校側も生徒に対してしっかりとケアをし、より良い学生生活を送れるように手を差し伸べていただきたいと思います。その上である程度の成果を出した本年度は良かったのではないかと思います。</p>

令和4年度 学校評価書

令和5年3月23日

学校法人長鳴学園
城南静岡高等学校・中学校
校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

II. 各部・領域等に関すること

	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)	評価	学校関係者評価委員から
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ○資格取得・検定勉強対策 ○基礎学力の向上 ○道徳教育の充実 ○地域貢献教育への取り組み 	<p>ICT科では、商業科目の検定対策として特別講習と強化週間を年間2回ずつ設け、取得率の向上に取り組んだ。大学進学に求められる英語の資格取得対策として、英語検定強化週間も実施した。普通科では基礎学力の定着に励み、学力の向上を図った。また、探究活動にも取り組み、市内を中心にフィールドワークを実施し、伝統産業を学び、問題点や解決策などを探究した。また、地域貢献教育の一環として「静岡ホビーショー2022」と「しんきんフェア2022」に高校3年生ICT科が参加し、企業のサポートをした。</p>	<p>A</p> <p>本年度も教育活動に影響がないように取り組んだ。取得資格では、5年連続で税理士試験の簿記論に1名合格することができた。他にも、日商簿記1級に1名、全経簿記上級に1名、全商全種目(9種目)1級に1名、ITパスポートに2名合格するなど、全国でもトップクラスの実績を残した。また、本年度の卒業生では、全3種目以上1級合格28名を輩出し、数多くの資格を取得し卒業させることができた。「静岡ホビーショー2022」と「しんきんフェア2022」では、受付をはじめ物販のサポートや会場周辺の警備、小学生の案内誘導補助など様々な仕事を体験することができ、企業とのつながりを深めることができた。また、デジタルアレンジコースで学んでいる動画編集では、校舎に映像を描写し、近隣の住民や学校説明会に訪れた中学生と保護者に高評価を得ることができた。</p>	A	<p>毎年難関資格にチャレンジして合格することについては、生徒のみならず先生方の指導の賜物だと思います。今後も同様に精進していただきたい。</p>
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣 ○校外での安全管理 ○愛される学校作り 	<p>日常的生活指導に加え、定期的な服装・頭髪検査や遅刻者の調査・改善指導等を実施した。また、昨年度の反省を生かし、登下校時における交通指導やマナー指導、校外巡視の定期実施など校外における風紀指導を徹底した。</p>	<p>B</p> <p>今年度は昨年度の反省を生かし、登下校時の時間帯に重点を置き、校外指導の範囲・回数を増やすなどの対策を講じた。指導の成果も徐々に表れ、交通安全キップの発付数も目に見えて数が減少しており、生徒たちの交通安全やマナー向上の一因になっていると実感している。今後も城南生としての在り方・愛される学校づくりを念頭に掲げ、より一層生徒指導に邁進していきたいと考える。</p>	B	<p>最近自転車の事故が増えている感じがあります。命が懸かる問題ですので十分注意してほしいと思います。マナーについては注意することがそのまま交通マナーにつながるのだと思います。</p>

令和4年度 学校評価書

令和5年3月23日

学校法人長嶋学園
城南静岡高等学校・中学校
校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)	評価	学校関係者評価委員から
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 業生全員の進路実現 ○ 1, 2年生の進路意識の高揚 ○ 学問探究心、職業観の育成 	<p>3年次の進路実現に向けて1, 2年次から体系づけて様々な講習や個別相談、指導を行った。小論文講習や面接講習をはじめとする様々な講習を対面で実施した。また、小論文はその後の個別指導においても専門教科に具体的指導をお願いし、継続的に書く指導を行った。進路ガイダンスでは感染症対策のガイドラインを策定して予防措置をとって例年通りの規模で開催した。夏休みや5月～7月の土日を活用したオープンキャンパスバスツアーを実施し、県内外の有名私大の比較研究を呼びかけた。高校3年生の進学予定者の傾向として総合型選抜や学校推薦型選抜を活用する生徒がほとんどであった。選考方法が、小論文、口頭試問、プレゼンテーション、基礎学力試験など複雑であったため早くから準備を開始し、長期的に個別指導を徹底した。</p>	<p>B</p> <p>多くの生徒が自らの適性を見極めて、希望通りの進路を実現することができた。進学者は、年内入試である程度の結果を残すことができた。上位私大へのチャレンジが昨年度よりわずかに減少した。専門学校への進学者が増加し、特に国家資格を必要とする医療系への進学が増加した。総合型選抜、学校推薦型選抜の実績を上げていくためには、今後も個別対応して継続的な指導に力を入れる必要がある。就職は売り手市場で40名の就職希望者に対し求人数が10倍を超えていたため内定率も高かった。就職希望者の多くが意欲的で、複数企業の見学会に参加し積極的に活動することができた。そして、今後は教員の指導力向上を図るべく、教員向けの講習やマニュアル作りが必要となる。また、事務作業の効率化を図るため、ICT活用を積極的に行っていきたい。</p>	A	<p>毎年学校を訪問すると、1階のロビーに進路状況が公開されています。多くの生徒さんが希望通りの進路に進んでいることが見受けられます。来年以降も丁寧な進路指導を期待します。</p>
保健部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心身の健康保持増進 ○ 感染症対策 	<p>薬学講座は昨年度に続き、オンライン配信にて実施し、薬物に対する正しい知識を身に付けさせた。コロナ感染症、インフルエンザ対策として換気の徹底、毎日の健康観察をアプリへ入力するよう呼びかけを行った。</p>	<p>B</p> <p>2年以上にわたるコロナ禍であるが、感染者数は世間の流行と同様で、多い時と落ち着いている時がある。学校行事は久しぶりに全て実施でき、学級閉鎖等もなく1年を終えることができた。5月から5類へ引き下げとなるが、引き続き感染症対策を継続していきたい。</p>	B	<p>コロナ禍も3年となり学校も大変かと存じますが、生徒のために対策を講じてもらいたいです。</p>
部活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の興味・関心を援助し、社会性・創造性を育てる。 ○ より高いレベルの大会等で結果を残す。 	<p>基本的な生活習慣の育成を柱とし、厳しさの中にも慈愛に満ちた指導を心掛ける。運動部においてはスポーツする楽しさや喜びを忘れず指導にあたる。文化部においては芸術系や学問系の技術向上を自発的・自主的に活動できるような指導にあたる。</p>	<p>A</p> <p>本年度もコロナ対策を徹底した上で、各種大会が行われた。全国大会に出場した部活動(水泳、体操、テニス、簿記)、活発な活動を行うことができた。高校では全国高校総体で水泳部が個人優勝、県高校総体で水泳部と体操部が個人優勝、全国簿記競技大会で簿記部が団体4位、中学では東海中学総体で体操部が団体と個人の優勝とコロナに負けない活躍をした。</p>	A	<p>毎年部活動の活躍を新聞等で拝見しています。コロナ禍において明るい話題となりますので、来年以降も全国大会を目指して頑張ってください。</p>

令和4年度 学校評価書

令和5年3月23日

学校法人長嶋学園
城南静岡高等学校・中学校
校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)	評価	学校関係者評価委員から
教職員の資質向上	○意識改革研修	職員の意識改革やモチベーション向上につなげる研修を2回実施した。1回目は、学校改革をテーマにした勤務年数ごとのグループワークに取り組み、多くの意見や課題が話し合われた。2回目は静岡県立大学 薬学部 准教授 窪田辰政先生による講演「心理学から見た生徒支援～自身を育む方法論～」を受講した。また、本年度はプロジェクトマッピングなどを学ぶ「デジタルアレンジコース」が初めて卒業生を送り出す年度でもあったので、担当教員を中心として様々な研修に参加してもらい、指導力向上に努めた。	A 昨年度まで実施していた「授業改善」を中心とした研修とは趣が異なる研修ではあったが、教員が学校の運営まで深く考えることや、心理学を取り入れる今までとは異なる視点で生徒指導をすることができ、多くの成果があった。また、デジタルアレンジコース担当教員を中心に「光のアートで校舎を包もうプロジェクト」を10月に開催し、多くの鑑賞者を学校に招くことができたイベントとして成功を収めた。	A	光のアートは拝見させていただいたが、新しい試みとして大変良かったと思います。企画・実演した先生方は苦勞されたことと思います。また、近所の方々も多く集まっており、地域貢献としても良い企画でした。
保護者との連携	○学校と保護者双方で生徒を育てるという意識で連絡を密にする	昨年と同様にメール等を利用して学校の状況を発信した。また、卒業式等の大きな行事については、参加人数を限定するなどして対応した。	A 昨年と同様にコロナ禍であったため保護者が来校しての行事は大幅に制限されたが、電子機器を利用してお知らせは密にできた。また、保護者面談などは感染対策を実施して実行できた。	A	ICT化によって連絡方法が多様になり問題なくこなせたことが伺える。
地域との連携	○学校行事の地域の方の参加の呼びかけ ○地域の行事に対しての職員・生徒の参加 ○学校施設の貸し出し	行事等は縮小しての実施となったが、昨年中止となった行事の復活などいくつかあるので積極的に参加したいと考えている。	A 外部のイベント等が復活したため、依頼のあったイベントに積極的に参加し、地域との交流を深めた。また、本校の体験入学の際にプロジェクトマッピングを大学とのコラボで実施し、近隣住民の多くの参加があった。また市のイベント等に学校施設を貸し出しも行った。	A	コロナ禍も徐々に落ち着きを見せ、学校も地域との連携を見せ始めている。プロジェクトマッピングも拝見させていただいたが、いいものを見せてもらい生徒の励みにもなったイベントだったと思う。
施設・設備	○本館エアコンの入れ替え ○屋上防水工事の実施	本館が15年経ち、老朽化したエアコンの入れ替えを夏に実施したいと考えている。また、屋上の防水を一部実施したい。	A エアコンの入れ替えを夏休みに実施し、快適となった。さらに、空気清浄機を導入し勉強に快適な空間を実現した。また、屋上の防水については北側部分について春休みに実施した。	A	エアコンを新しく入れ替え、時代がら空気清浄機を導入するなど生徒の健康面にも気をつけている。

令和4年度 学校評価書

令和5年3月23日

学校法人長嶋学園

城南静岡高等学校・中学校

校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

学校からの経営のまとめ(成果と課題)	
<p>この年代の生徒は、3年間の授業を制限がかかった状態で行っていました。ずっとマスクを着け、挨拶も大きい声を出さず、食事も黙食で食べていました。出身小学校や中学校でもコロナの影響で静かな学校生活を送ってきたと思われます。静かに授業を受けるのは非常に良いことですが、少し暗くも感じられました。卒業式から入学式まで全ての行事が縮小され制限のある中で行われてきました。新入生研修も国歌や校歌の練習や校訓の唱和など大きい声を出しての行事はことごとく中止されました。コロナ初年度はマスクで小さい声で挨拶しても聞き取れませんでした。2年目は聞き取りにくい挨拶をしっかりお辞儀することでカバーしてくれていました。今年度はお辞儀し聞き取れるぐらいの声で挨拶をしてくれています。以前より礼儀正しいように思えます。</p> <p>これから社会に出るとプレゼン能力が問われますが、リモート会議では、事前にまとめた資料に従ってカメラに向かってしゃべるようになります。発信する能力が必要です。聞き手もじっとしているのではなく、うなずいたり手を動かしたりと相手の話をしっかり聞いているという確認動作が必要です。このコロナ禍で改めてコミュニケーション能力が必要だということを実感しました。本校では今後、自ら進んで考え行動する能力と相手の事を考えて話をする事の出来る能力を培っていきたいと思います。服装を整え、礼儀を理解し、生徒とともに未来を考えていきたいと思います。</p>	

A	<p>少子化がさらに進んでおり、学校の特徴を全面的に打ち出すことが今後の経営においてさらに重要になってくると思います。その上でコロナ禍で各校とも同じような対応しか取れなかった数年間から脱却し、学校内外ともに新しい展開ができることを期待したいと思います。</p>
---	--